

# renew

## 第1回 教えて保健室



### renewを開催するにあたって

若者をめぐる諸相（虐待、貧困、経験格差、ヤングケアラー、不登校増等）や、コロナ禍に顕在化した諸課題（孤独・孤立、夜の居場所など）、またこども家庭庁設立の過程を通して、若者期の生きづらさや社会制度との狭間への関心が高まっている。若者にかかわる現場では、さまざまな支援や制度に“のらない”・“のれない”若者たち、またはその選択肢を持ってない実情を目の当たりにし、モヤモヤしたままに、本人をまんなかにかかわろうとしている。

現場で感じる、支援や制度設計そのものへの「違和感」や、若者たちとの「関係性」をヒントに、かかわる側が自らを問い直し、サポートティブなつながりづくりを企図した学び場を開設したいと思い開催に繋がりました。当日は14名の多職種にわたる皆様にご参加いただきました。

主催協力：京都市ユースサービス協会/とりあえずほけんしつ

京都市ユースサービス協会所属 竹田明子 とりあえずほけんしつ 養護教諭 山村和恵



### おいしい食べ物と ラジオとのコラボ

2023年5月14日 (SUN)

10:00~13:00

場所：京都市ユースサービス協会

当日はFM86.2きょうとこれからラジオパーソナリティのたけだあきこのナビゲートで開催。アフタヌーンティーをしながら皆さんと意見交換しました。全員の皆さんから多くの質問もいただき熱い会になりました。

今日は「renew」っていうタイトルを付けた第一回目なんですけど、このタイトルにつけた思いとしては、まあ「re:」なので「再び、改めて」みたいな意味をこめた言葉と、「new」「新しく、新たに」っていう言葉ですけれども、普通に若者とか子供達と関わられている皆さんが、専門性とかなんかもっと新しい情報とか更新して行きたいということよりも、自分自身を改めて問い直してみたりとか、目の前にいる子供たちとか若者たちとの関係性に少しスポットを当てて、専門性とか新しい知識というよりかは、今日ここにいらっしゃってる皆さんとか、お話いただく山村先生の現場での出来事に思いを馳せて、自分自身を更新していくというか。新しい知識をインプットして自分を逞しくしていくというよりかは、ちょっとほぐして。自分自身の中にあるものを、他の人のお話を聞きながら、少しほぐして、何とか、何とかじゃないかな、もう少しリラックスした形で自分自身を更新して行く、その時にきつとこう、今日集まってらっしゃる他の人の実践現場とか思いとかっていうことも、とても刺激になるのかなっていうふうに思っていて、こんな円の形で座っていただいています。



ナビゲーター たけだあきこ



だからこそ、やっぱり学校ではですね、とりあえずほけんしつなんですよ。まあ、とりあえず保健室おいでなっていう意味で付けました。学校の先生も最近保健室に連れてったらいいんちゃうかみたいな流れもあって、とりあえず保健室に行き一などか言われるんですよ。着替えとか、洗濯機があったりとかね、あと生理用品はありますよね。で、なんか本とかあつたりするんですよ。なんかそんなふうに住居が感じられたりとか、ちょっと逃げられる場所っていうか、学校内に逃げられる場所っていうの意外にはないんです。私は毎日生徒が来室してきた時に書く紙があるんですけど、そこに「一人になりたいです」「誰とも喋りたくないです」という項目を作っています。そしたらね、ちゃんと印してくれるんですよ。それをみたら、「あー、そしたらその部屋にはいるか?」「うん」とかって言ってくれる。そんなふうに分かちがく時間が自分で決められる、またちょっとそういう提案ができる、学校現場でもしんどくならないような場所として、居場所としていられるっていうところを提案できる、保健室はそんな場所じゃないかなと思っています。

情報提供 養護教諭 山村和恵

保健室の良い記憶が自分の中に特になく、保健室の場所も覚えてなくて、先生だったり、同級生だったり信用することをその時からやめてしまって、でも、今こうやって今日先生のお話を聞いて、なんか助けてあげる場所を覚えていて、なんか私みたいな人が生まれなければいいなと思いつつお話を聞いてました。ありがとうございます。

学校内のアプローチを先生側じゃなくて、養護教諭の保健室側からっていうのを一緒に考えてもらえたんじゃないかなって、なんかちょっと思っていて、自分の中で選択肢が増えたような気がします。ありがとうございます。

やっぱり学校に行きにくいとか、そういうような子どもが保健室に行けなくなったら、やっぱりどこに行くのかなというところがすごく心配だわっていう話をしています。居場所づくりのことにもつながるのかなみたいな話が出てたりもしてたんですけど、やっぱり悩みを抱えてたり、家庭環境の中でずっとつまずいているとか、そういうような子がなんとかこう悩みが吐き出せるような、そういう空間って大事だなというふうに思いました。

セクシャリティでの悩み相談ってありますかっていうのと、学校の先生たちの理解って、今だいぶ増えてきているのかなとは思んですけど、どんな感じかなっていうのを聞かせていただけたらなと思っています。

保健室に来てくれる子に対応するのはもちろんそうなんですけど、多分それだけで多分人手もないからいっぱいなんですけど、保健室に行くという発想すら無いというか、自分の中にその選択肢がない子ってどこに行くんだろみたいなのところ。なんかそういう子達に対して、アプローチであったりとか、存在をアピールするっていうのもそうなんですけど、なんかこう、もしもあつたら伺いたいなというふうに思っています。

マスクが取れない若者達っていうのとか、あと前髪がものすごく長くて、外界をシャットアウトするような子ども達がいるっていう話を聞いて、そういう子達って、いるなあと思いつつも、そういう子達とどう信頼関係を作っていくというか、関わりを深めていくにはどうしたらいいのかなっていう疑問がきました。